縄文オオカミとアレキサンダーオオカミ
その共通項

◆　縄文オオカミとは

かつて日本にはニホンオオカミ（学術名称：Canis lupus hodophilax）と、ヤマイヌが混在しており、いまだその存在は明確にわけられず、日本列島に生きたオオカミらしき生き物を総称して呼ばれる。北海道に生きていた大陸のオオカミであるエゾオオカミよりも体が小さく、別の動物（亜種）であったことが確かめられている。

◆　アレキサンダーオオカミとは

現在アラスカのアレキサンダー諸島に生息するオオカミ（学術名称：Canis lupus ligoni）で、大陸に棲むオオカミの別種。一般に言われる大陸に棲むオオカミよりも体が小さい。夏場は海由来のサケを食べるという特徴がある。

◆　共通点と考えられる特徴

大陸のオオカミが島に渡り、１万年以上の歳月を経たために、体が小さくなる島嶼化（とうしょか）が起こっている。一般に言われる大陸のオオカミ（Ave.10）よりも少数の集団（Ave.5）で群れをなし、縄張りが狭く、隣の群れと争いをせず、海由来の生物（サケ、貝類、クジラの残骸など）をたべる。日本とアラスカ、5000Km 離れた土地にあっても、体格、食性が似てくることで、暮らしぶりに多くの共通点が現れてくる。

２０２０年7月１０日

中島たかし　書記